

質問者



松本 一二美 議員

**Q** 妊産婦無料健診の助成を！

**A** 前向きに検討します

**問**

母子保健法に「市町村は、必要に応じ、妊産婦または乳児若しくは幼児に対して、健康診査を受けることを勧奨しなければならない」とあります。妊娠・出産に伴う費用は、出産世帯には負担が大きいのが現状。

妊娠中の健診は保険適用がされず、1回の受診で約5,000円が自己負担になる。

厚生労働省は、健康で安全なお産をするためには、5回以上の検診が必要とある。

町公費負担の現状はどうか。

無料妊産婦健診の回数拡充に助成を要望するが、考えは。

**答**

佐伯助役

通常、妊娠初期から出産までの41週間で妊娠初期に3回程度、安定期に7回程度、後期に4回程度、合わせて14回程度の健診を受け、自己負担は

13〜14万円程度必要です。

松前町では、妊娠初期に1回、後期に1回の2回と、35歳以上の高齢出産の方に、後期にエコー検診を公費負担でしています。今年度は260人に受診券を交付し、費用は320万円程度です。

無料健診は、母体の健康と健康な子どもの

出産のために大切であると十分認識しています。

5回に拡充した場合、新たに500万円程度の財源が必要になります。

少子化対策の一環として前向きに検討します。

**問**

障害者や高齢者に配慮ある施策を

今年4月、松前町福祉センター内に、障害者小規模作業所が開設される。

町内での開設は、障害者が居る家族にとって



障害者小規模作業所

も、長年にわたる夢の実現であり、身体・知的・精神の3障害が一緒に手を取り合っている作業所実現は画期的なことである。

町としての見解は。

内部障害者は、理解が得られないのが現実。

町内の内部障害者の現状数は。

町として、耳マーク・ハートプラスマーク・オストメイトの取り組みの考えは。

町が主催の特別な行事や高齢者対象の会に限って、福祉バス休日運行を

要望しますが、お考えは。

**答**

障害者施策に  
取り組む  
白石町長

作業所開設は、大変喜ばしいことです。安定して運営できるよう支援していきます。

身体障害者手帳交付者は約1,100名で、内300名ぐらいが内部障害をもっており、耳マーク・ハートプラスマークは、有効な取り組みであるという考えから、役場の窓口への表示、また障害者用駐車スペース等への表示に取り組んでいきます。

人口肛門や人口膀胱を持つておられるオストメイトのかたの外出の支援として、庁舎1階、福祉センター・文化センター・体育館等の1階トイレへ専用設備の設置が可能か、点検し考慮します。

福祉バスの有効利用は、福祉バス運営委員会を開き検討します。

**問**

青年海外協力隊派遣条例制定を

政府事業として「青年海外協力隊」が昭和40年に発足。

これまでの松前町の参加状況はどうか。

志がある若者支援の模範として、行政が率先して「派遣条例」制定をすべきと考える。

町職員の国際ボランティア活動参加に際して、期間中の身分を保証した「現職参加制度」の条例制定への所見は。

**答**

早期に  
議会へ提案  
永見総務課長

現在までに町から延べ15人の方が参加をしています。国際化する現代社会において組織の人材育成の一つとして大変意義があると考えています。条例制定は、法律に基づいて条例制定の準備をし、早期に議会へ提案します。